2020年度 第１四半期 決算概要
2020年度 業績見通し

2020年7月30日
パナソニック株式会社

Panasonic

- 本日は、
  2020年度第1四半期決算概要、
  並びに、2020年度業績見通しについて、ご説明申し上げます。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2020年度　第１四半期決算のポイント

- 第１四半期実績
  - **売上高**は、事業ポートフォリオ改革による非連結化影響に加え、**新型コロナウイルス感染症の影響（コロナ影響）により、減収**
  - **利益**は、経営体質強化の取り組みは進捗も、減販影響が大きく、**減益**
  - **コロナ影響は、６月から売上高・利益とも改善**
- 年間見通し
  - 第２四半期以降、**コロナ影響は緩やかな改善を見込むも、年間では減収減益**
  - 中期戦略の収益改善については、**経営体質強化等を着実に推進、**加えて、コロナによる社会変化がもたらす**事業機会への取り組みを強化**

Panasonic　2020年度 1Q決算概要／業績見通し　1

- 最初に決算発表のポイントです。
- ２０２０年度第１四半期実績は、
  売上高は、事業ポートフォリオ改革による非連結化影響に加え、
  コロナ影響により、減収、
- 利益は、経営体質強化の取り組みは進捗しましたが、
  減販影響が大きく、減益となりました。
- コロナ影響は、６月から売上高、利益とも改善しております。
- 年間見通しは、
  第２四半期以降、コロナ影響は緩やかに改善すると見込んでおりますが、
  年間では減収減益となります。
- 中期戦略の収益改善については、経営体質強化等を着実に推進、
  加えて、コロナによる社会変化がもたらす事業機会に対し、
  取り組みを強化してまいります。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

- それでは、
  第1四半期の決算概要についてご説明します。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2020年度1Q 連結業績

- 売上高：事業ポートフォリオ改革による非連結化影響に加え、コロナ影響により、減収
- 調整後営業利益：固定費削減等の経営体質強化は進捗するも、減販損が大きく、減益
- 営業利益：一時的利益の計上により黒字を確保も、減益 ／ ・純利益：減益

(億円)	20年度 1Q	19年度 1Q	前年比/差	
売上高	13,919	18,911	74% 為替除き (75%) 為替・非連結化影響除き (79%)	▲4,992 (▲4,727) (▲3,705)
調整後営業利益*1 (率)	▲59 (▲0.4%)	624 (3.3%)	–	▲683
その他損益*2	97	▲60	–	+157
営業利益 (率)	38 (0.3%)	564 (3.0%)	7%	▲526
営業外損益	▲7	▲2	–	▲5
税引前利益	31	562	5%	▲531
親会社の所有者に帰属する当期純利益	▲98	498	–	▲596

為替レート	1USドル	108円	110円
	1ユーロ	118円	123円
	1人民元	15.2円	16.1円

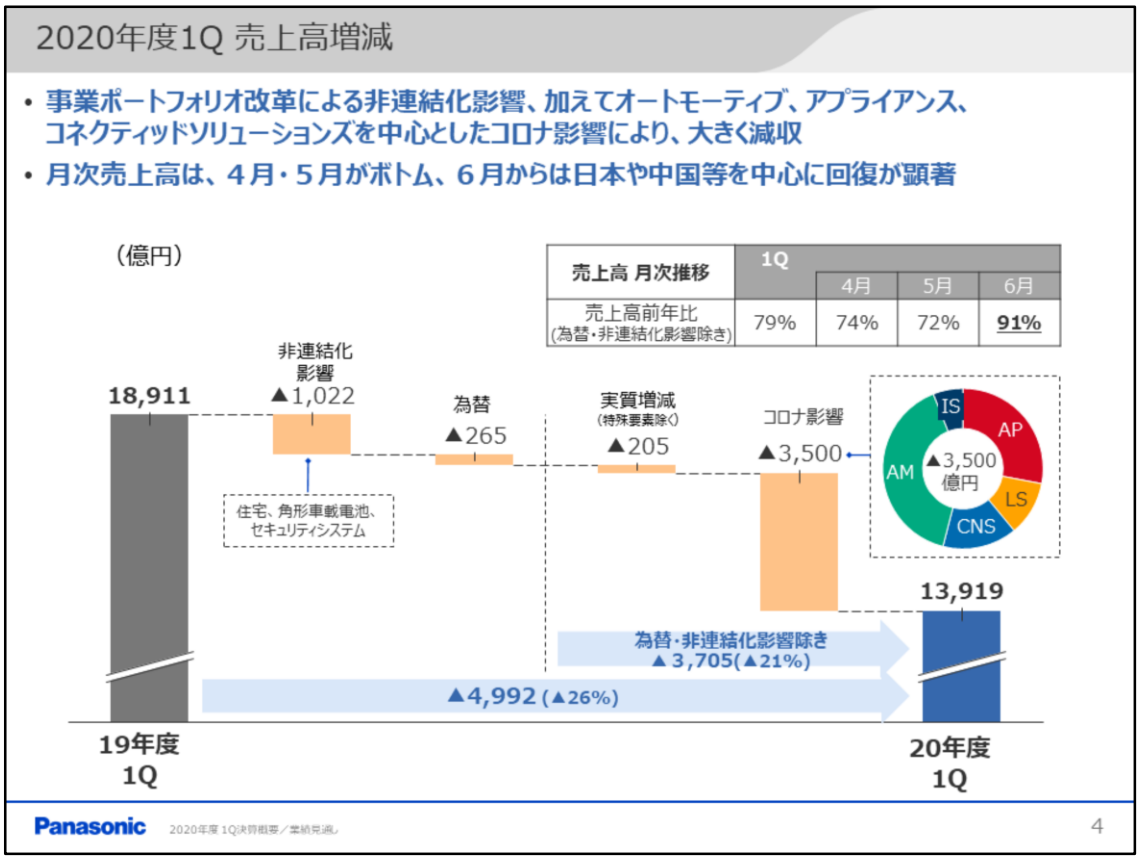
*1 売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を控除して算出

*2 決算短信記載の「その他の損益」に「持分法による投資損益」を加えたもの

Panasonic 2020年度 1Q決算概要／業績見通し 3

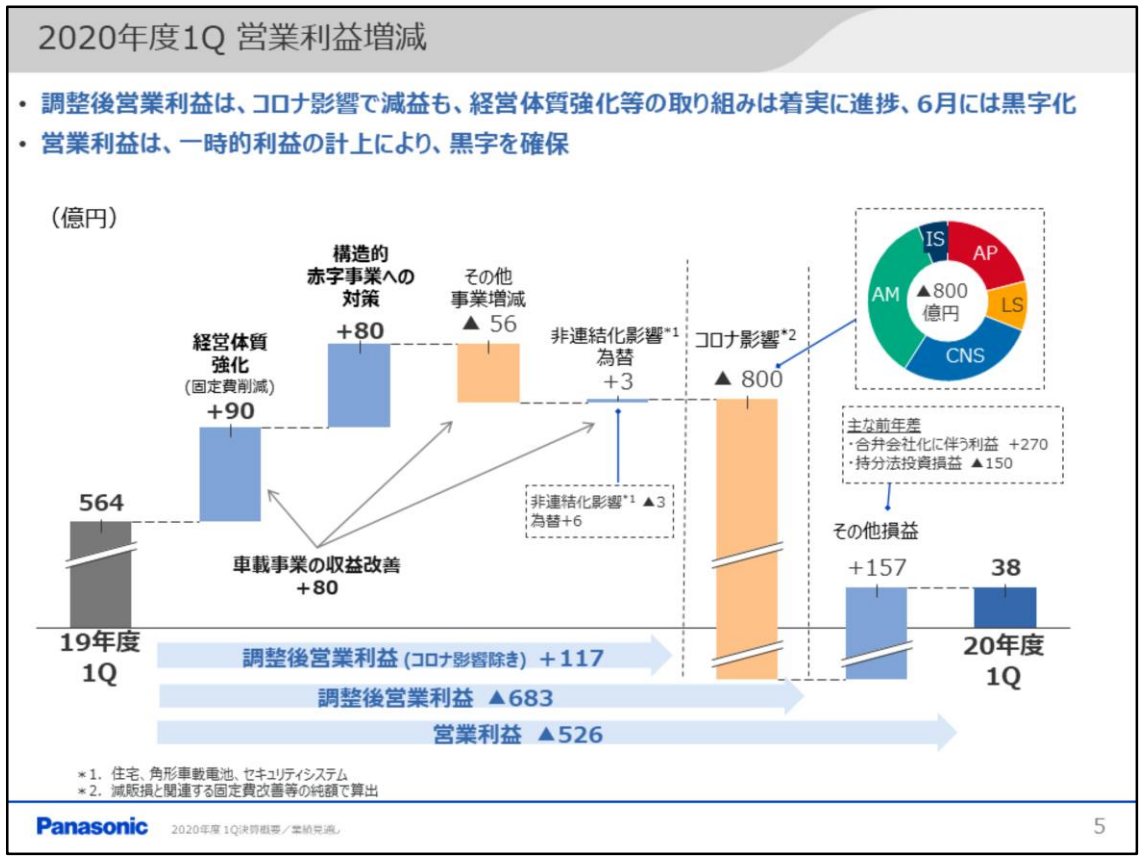
- 第1四半期の連結業績は、ご覧のとおりです。
- 売上高は、1兆3，919億円、
  非連結化影響や、コロナ影響により、減収となりました。
- 調整後営業利益は、減販損が大きく、減益、
- 営業利益は、
  一時的利益の計上により黒字を確保しましたが、減益、
- 純利益も減益となりました。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- こちらは、売上高の増減要因です。
- 全体では、4，992億円、26%の減収、
  為替と非連結化影響を除くと、3，705億円、21%の減収となりました。
- この内、コロナ影響による減収が、3，500億円、
  これは主に、オートモーティブ、アプライアンス、
  アビオニクス事業を含むコネクティッドソリューションズなどの影響です。
- ただし、コロナ影響は、6月から改善してきており、
  売上高は、前年同月と比べ、
  4月と5月がそれぞれ74%、72%に対し、6月は91%、
  日本や中国を中心に、顕著な回復を示しております。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- 次に、営業利益の増減要因です。
- 調整後営業利益は、
  683億円の減益となりますが、
  コロナ影響を除くと、117億円の増益となりました。
- 中期戦略で掲げております収益改善の取り組みは、
  着実に進捗しております。
- 具体的には、固定費削減は、90億円、
  構造的赤字事業への対策は、80億円の増益効果があり、
- また、車載事業は、80億円の収益改善となりました。
- 一方で、コロナ影響は800億円の減益要因となり、
  オートモーティブ、コネクティッドソリューションズ、
  アプライアンスの割合が、大きくなっております。
- 営業利益は、
  一時的利益により黒字を確保、
  ただし、全体では526億円の減益となりました。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2020年度1Q セグメント別実績

（億円）

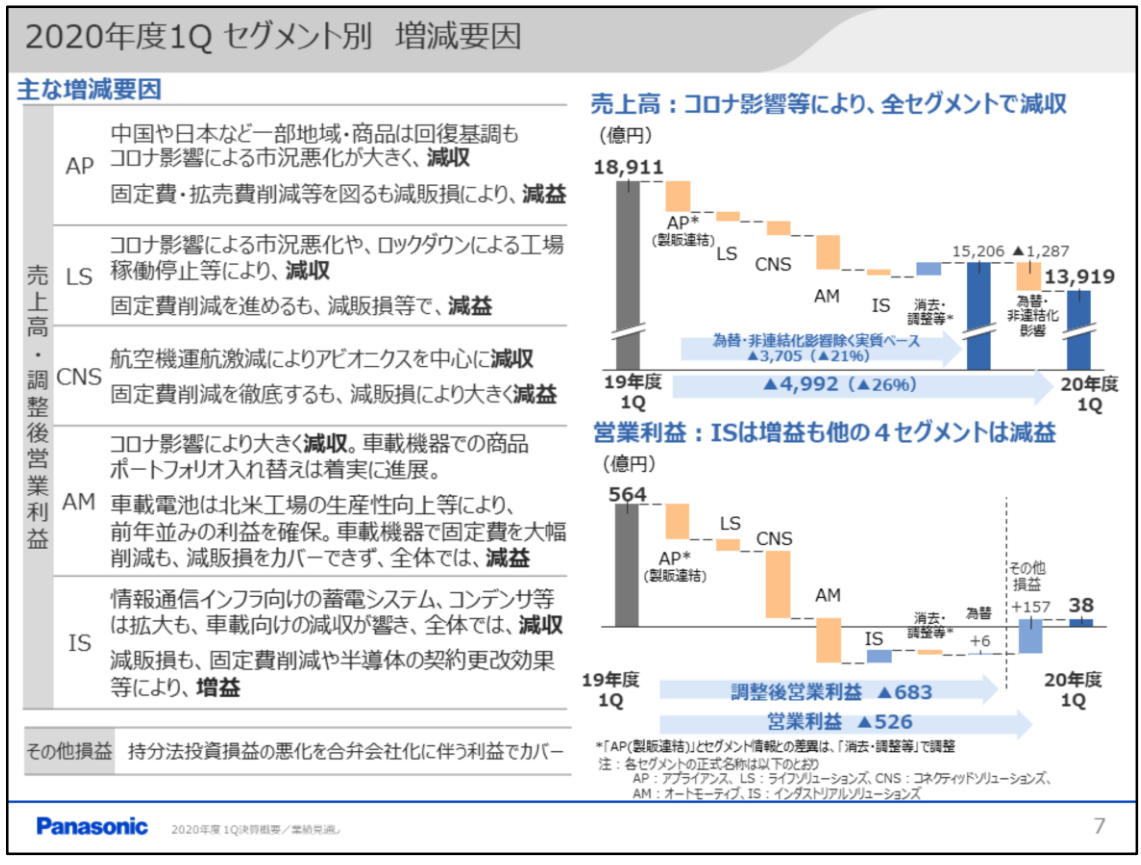
	売上高	前年比（為替影響除く）	前年差	調整後営業利益	前年差	その他損益	前年差	営業利益	前年差
アプライアンス	5,547	81%（82%）	▲1,337	158	▲147	▲6	▲1	152	▲148
ライフソリューションズ	3,251	70%（71%）*1	▲1,376	73	▲52	▲17	▲19	56	▲71
コネクティッドソリューションズ	1,853	73%（74%）	▲699	▲166	▲308	6	+11	▲160	▲297
オートモーティブ	2,108	56%（57%）	▲1,666	▲295	▲197	200	+202	▲95	+5
インダストリアルソリューションズ	2,886	88%（90%）	▲385	107	+39	▲15	+1	92	+40
その他	523	89%	▲62	8	▲3	▲5	▲9	3	▲12
消去・調整	▲2,249	-	+533	56	▲15	▲66	▲28	▲10	▲43
連結決算	13,919	74%（75%）	▲4,992	▲59	▲683	97	+157	38	▲526
アプライアンス（製販連結）	5,631	80%（81%）	▲1,448	143	▲145	▲6	▲0	137	▲145

*1 為替・非連結化影響を除く前年比は88%

Panasonic 2020年度 1Q決算概要／業績見通し 6

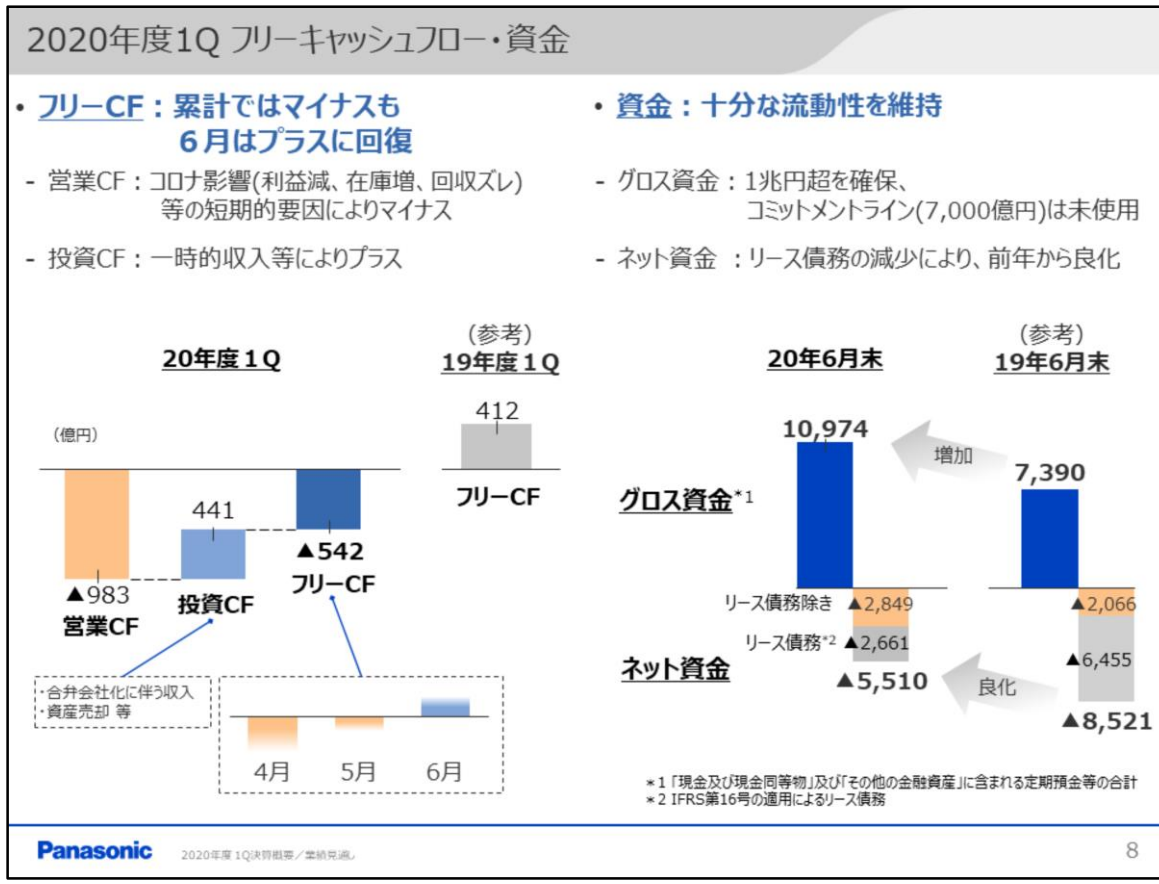
- セグメント別の実績はご覧のとおりです。
  詳細は、次のページでご説明します。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- こちらは、セグメント別の増減要因です。
- 売上高は、全セグメントで減収、
- 調整後営業利益は、インダストリアルソリューションズは増益ですが、
  他の４セグメントは減益となりました。
- アプライアンスは、
  中国や日本など一部地域・商品は回復基調でしたが、減収減益、
- ライフソリューションズも、減収減益となりました。
- コネクティッドソリューションズは、
  売上高は、航空機運航減少により、アビオニクスを中心に減収、
  利益は、固定費削減を徹底いたしましたが、大きく減益となりました。
- オートモーティブは、
  売上高は、車載機器での商品ポートフォリオの入れ替えを着実に進めましたが、
  顧客の自動車生産台数減少により、大きく減収、
  利益は、車載電池は北米工場の生産性向上等により前年並みを確保、
  また車載機器で固定費を大幅に削減しましたが、減販損により、全体では減益、
- インダストリアルソリューションズは、
  売上高は、情報通信インフラ向けの蓄電システム、コンデンサ等は拡大しましたが、
  車載向けの減収が響き、全体では減収、
  利益は、減販損を固定費削減や半導体の契約更改効果等でカバーし、増益となりました。
- この結果、全社では、
  売上高は、為替や非連結化影響を除く実質ベースで21％の減収、
  調整後営業利益は、683億円の減益、
- 営業利益は、その他損益の良化はありましたが、526億円の減益となりました。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- 次に、フリーキャッシュフローと資金の状況について、ご説明します。
- フリーキャッシュフローは、５４２億円のマイナスとなりました。
- 営業キャッシュフローは、
コロナ影響による利益の減少や、
在庫の一時的増加といった短期的要因により、マイナスとなりましたが、
- 投資キャッシュフローは、一時的収入等により、プラスとなりました。
- フリーキャッシュフロー全体ではマイナスですが、
６月は単月でプラスに回復しております。
- 右側は資金の状況です。
- グロス資金は、１兆円を超える水準を確保しております。
加えて未使用のコミットメントライン契約もあり、
十分な流動性を維持しております。
- また、ネット資金は、
事業ポートフォリオ改革の推進により、
住宅事業関連のリース債務が連結対象外になったことから、
前年の同月より良化しております。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

- 続いて、2020年度年間業績見通しについてご説明します。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2020年度　連結業績見通し

- **第２四半期以降、コロナ影響は緩やかな改善を見込むも、年間では減収減益**
- **中期戦略の収益改善については、経営体質強化等を着実に推進**

（億円）

	20年度		19年度		前年比/差	
売上高	**65,000**		74,906		87% 為替除き (88%) 為替・非連結化影響除き (93%)	▲9,906 (▲8,706) (▲4,963)
調整後営業利益*1 （率）	**2,200**	(3.4%)	2,867	(3.8%)	77%	▲667
その他損益*2	**▲700**		71		－	▲771
営業利益（率）	**1,500**	(2.3%)	2,938	(3.9%)	51%	▲1,438
営業外損益	**0**		▲27		－	+27
税引前利益	**1,500**		2,911		52%	▲1,411
親会社の所有者に帰属する当期純利益	**1,000**		2,257		44%	▲1,257
ROE	**5.0%**		11.5%			

		年間	(2Q以降)	年間
為替レート	1USドル	**106円**	(105円)	109円
	1ユーロ	**116円**	(115円)	121円
	1人民元	**15.4円**	(15.5円)	15.6円

＊1　売上高から、売上原価と、販売費及び一般管理費を控除して算出
＊2　決算短信記載の「その他の損益」に「持分法による投資損益」を加えたもの

Panasonic　2020年度 1Q決算概要／業績見通し　10

- 連結業績見通しは、ご覧のとおりです。
- 第2四半期以降、コロナ影響は緩やかに改善すると見込んでおりますが、年間では減収減益の見通しです。
- 売上高は、6兆5，000億円で9，906億円の減収、
- 為替と非連結化影響といった特殊要因を除けば、4，963億円の減収となる見通しです。
- 調整後営業利益は、2，200億円、営業利益は、1，500億円、純利益は、1，000億円の見通しです。
- 今年度は、コロナによる影響はありますが、経営体質強化は、着実に推進してまいります。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

コロナ影響の前提（売上高）

- **緩やかな改善を見込むも、航空、住宅関連、自動車業界向け事業では、下期も影響が残る**

	コロナ影響の内容	コロナによる売上影響*1 1Q	2Q	下期
全社	・各国での外出規制解除や、経済再開の状況に応じた**市況回復は継続。** **供給面の課題は解消**。新型コロナウイルス感染症の**再拡大は想定せず。**	▲20%	▲10~ ▲5%	▲5~ ▲3%
AP	・**欧州・アジア**は、**規制緩和により緩やかな回復傾向**、一方、**中南米、インド**は**影響が長期化。** ・**国内家電**は**回復傾向**に加えて、**巣ごもり・感染予防需要**を織り込むも、 **インバウンドや嗜好品の需要減**による影響が今後も続くと見込む。	▲20~ ▲10%	▲10~ ▲5%	▲3~0%
LS	・**海外**は各国の規制解除等で順次活動再開も、**大幅な成長鈍化**を見込む。 ・**国内**は**投資抑制**により、20年度中は**住宅新築着工戸数・非住宅新築着工床面積の減少**が続き、**リニューアル市場も低調に推移**すると見込む。	▲20~ ▲10%	▲10~ ▲5%	▲10~ ▲5%
CNS	・世界の**航空旅客需要**は、20年は**19年比▲50%減** ・**中国国内**の需要は**回復基調**も、**欧米**の**本格回復は21年度以降** ・リモートワーク等の常態化により、**情報通信インフラ向け需要は拡大傾向**	▲30~ ▲20%	▲20~ ▲10%	▲10~ ▲5%
AM	・**5月中旬より顧客は順次生産再開**、中国を先頭に**各地で回復基調は進む**も、 **下期も影響が残る**と見込む	▲50~ ▲40%	▲20~ ▲10%	▲5~ ▲3%
IS	・**自動車生産**は**下期もコロナ影響が残り**、車載向け部品需要の低迷続く ・在宅勤務・遠隔教育の常態化により、**情報通信インフラ向け需要は拡大** ・**工作機械の需要は低迷**続くも、**半導体製造装置は堅調**	▲10~ ▲5%	▲5~ ▲3%	▲3~0%

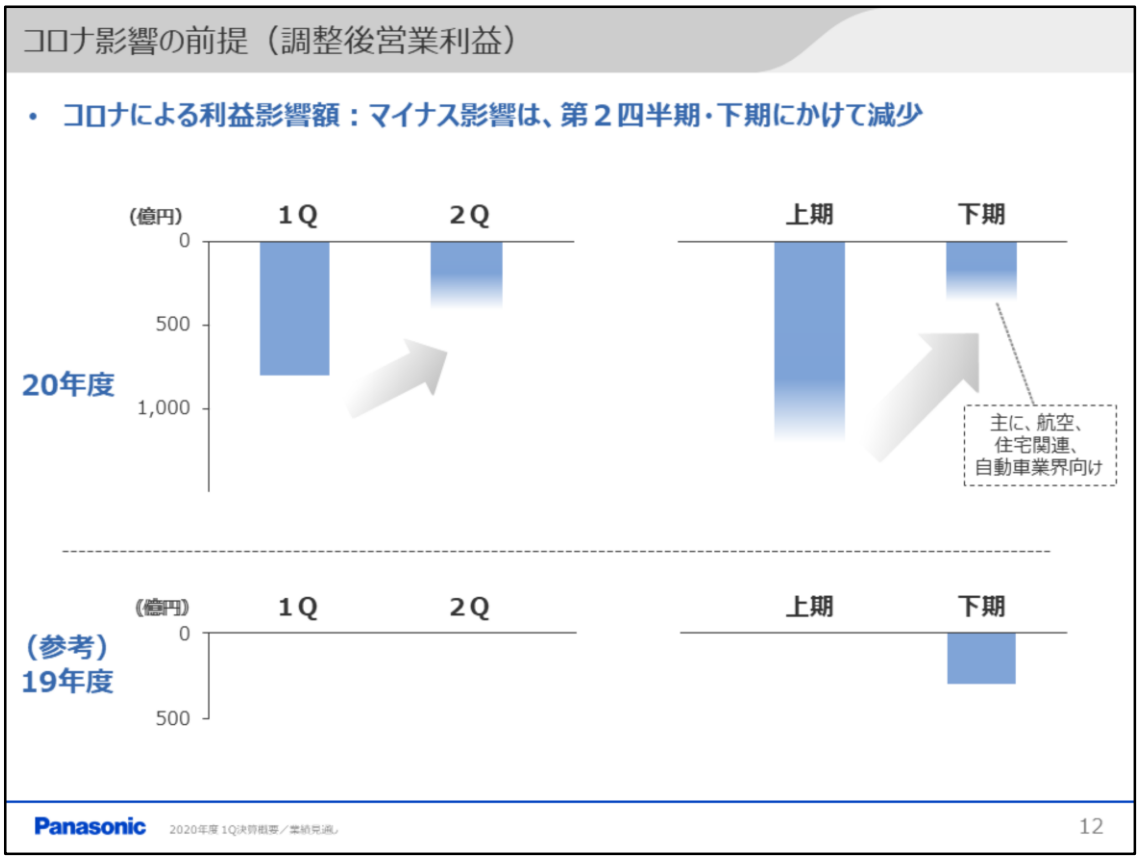
*1：コロナ影響除きの20年度売上高に対するコロナ影響

注：各セグメントの正式名称は以下のとおり AP：アプライアンス、LS：ライフソリューションズ、CNS：コネクティッドソリューションズ、AM：オートモーティブ、IS：インダストリアルソリューションズ

Panasonic 2020年度 1Q決算概要／業績見通し 11

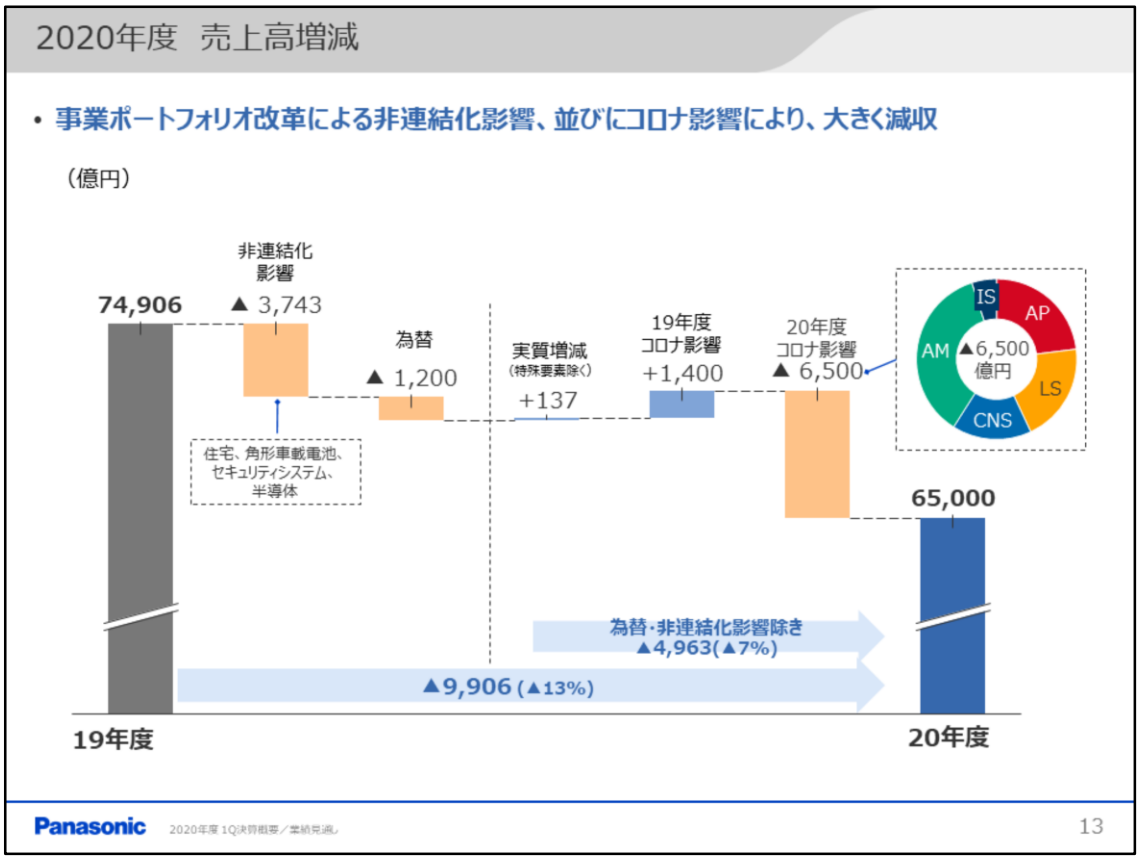
- まず、今回の年間見通しにおける、コロナ影響の前提をご説明いたします。
- 売上高は、緩やかな改善を見込んでおりますが、
  航空、住宅関連、自動車業界向け事業では、
  下期も影響が残るという前提を置いています。
- 詳細は、ご覧のとおりです。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



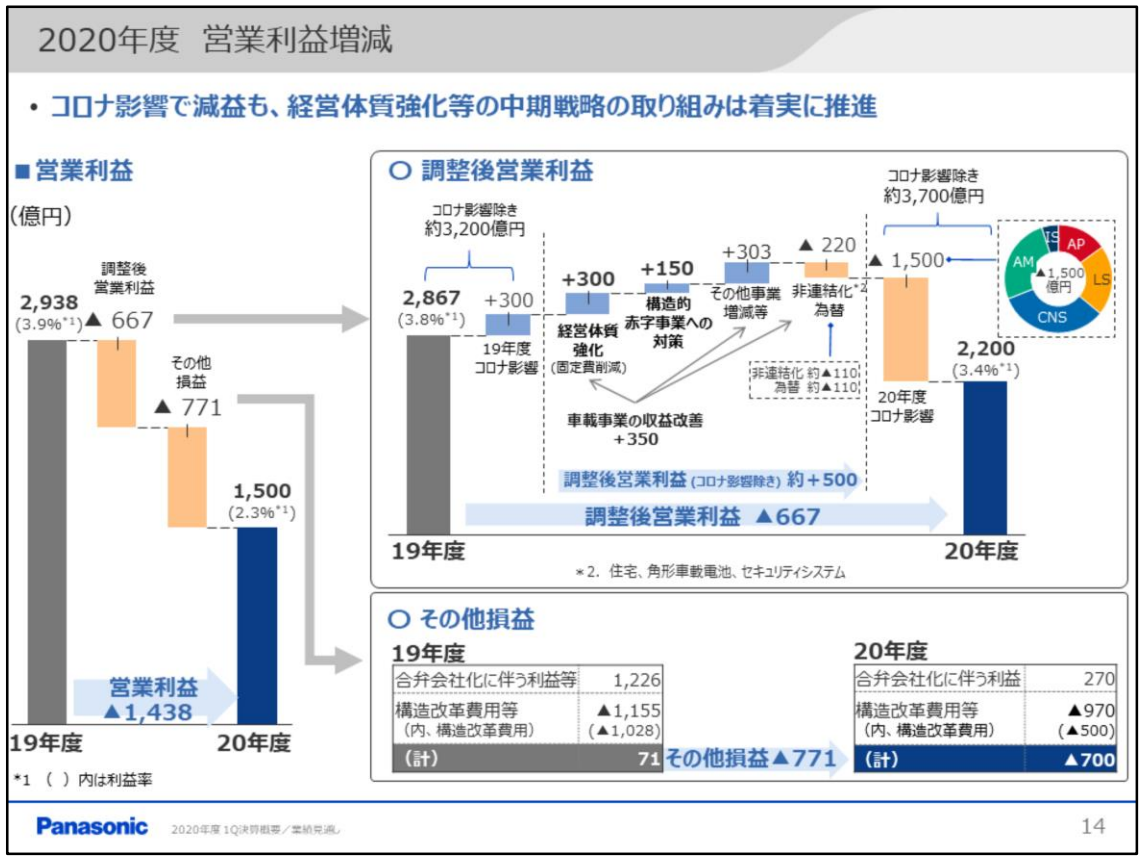
- 次に、コロナによる利益面での影響をご説明します。
- 利益へのマイナス影響は、
  第2四半期、下期にかけて減少していくと見込んでおります。
- ご覧のとおり、第2四半期は第1四半期と比べて半減、
- 下期は、一部の事業で影響が残りますが、
  上期と比べて大きく減少し、前年下期と同水準になると見込んでおります。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- これらのコロナ影響の前提を踏まえ、
  売上高の増減要因について、ご説明します。
- 売上高全体では、９，９０６億円の減収となりますが、
  為替と非連結化影響を除くと、４，９６３億円の減収となる見通しです。
- この内、コロナ影響は、
  １９年度１，４００億円の減収に対して、
  ２０年度は６，５００億円の減収を織り込んでおり、
  前年比では、差し引き５，１００億円が減収要因となります。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- 次に、営業利益の増減要因です。
- 営業利益は、1，438億円の減益、
  その内、調整後営業利益は、667億円の減益となる見通しです。
- コロナ影響除きでは、19年度約3，200億円の水準から、
  500億円強の収益改善に取り組みます。
- 具体的には、
  固定費削減、構造的赤字事業への対策に加え、
  車載事業では、車載機器の開発効率化や、
  車載電池の生産性向上・生産ロス削減を進めます。
- 一方、コロナ影響は、
  19年度300億円の減益に対して、
  20年度は1，500億円の減益を織り込んでおり、
  前年比では、差し引き1，200億円の減益要因となります。
- その他損益は、
  前年度の合弁会社化に伴う利益等1，226億円の反動もあり、
  771億円の減益となる見通しです。
- 20年度は、構造改革費用で500億円を見込んでおります。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

2020年度　セグメント別見通し

（億円）

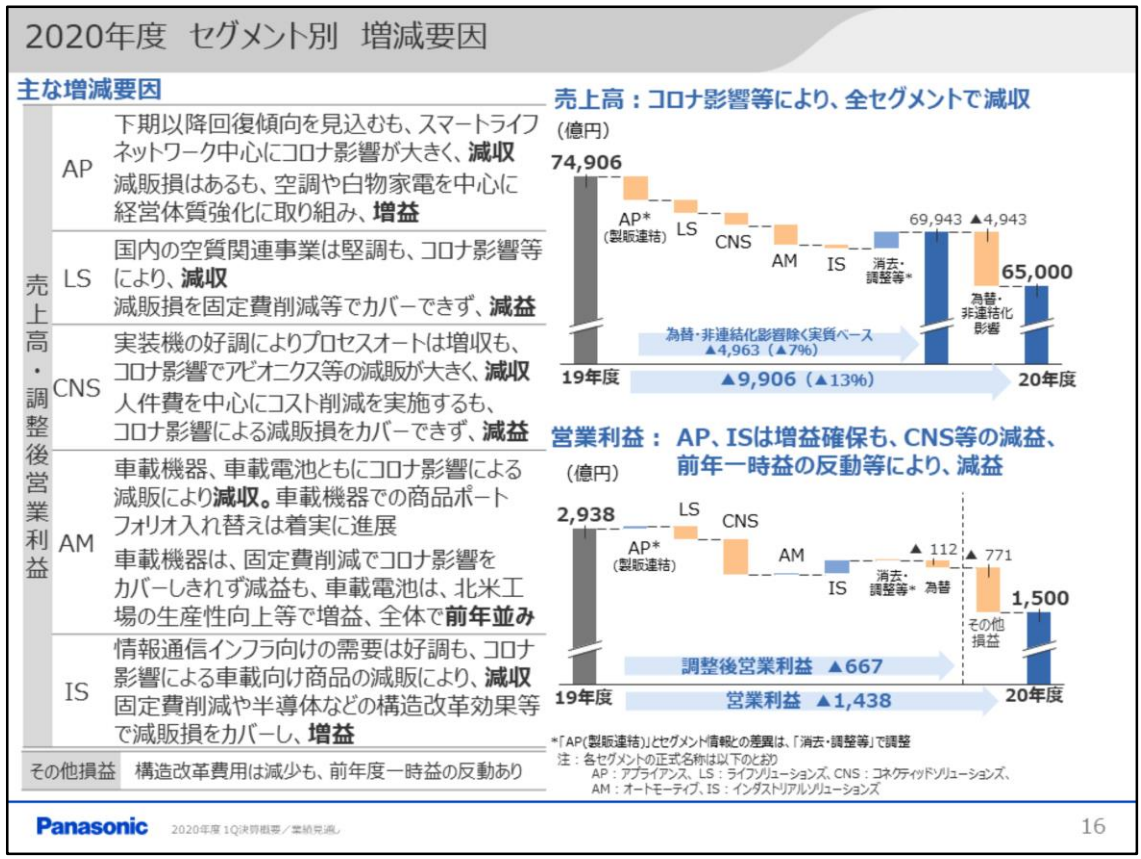
	売上高	前年比（為替影響除く）	前年差	調整後営業利益	前年差	その他損益	前年差	営業利益	前年差
アプライアンス	23,700	91%（93%）	▲2,203	730	+19	▲180	▲26	550	▲7
ライフソリューションズ	14,800	77%（78%）*1	▲4,386	750	▲234	▲300	▲1,117	450	▲1,351
コネクティッドソリューションズ	9,000	87%（88%）	▲1,347	150	▲610	▲20	▲180	130	▲790
オートモーティブ	12,500	84%（86%）	▲2,324	▲300	+5	▲40	+121	▲340	+126
インダストリアルソリューションズ	12,000	94%（95%）	▲827	550	+174	▲120	+210	430	+384
その他／消去・調整	▲7,000	-	+1,181	320	▲21	▲40	+221	280	+200
連結決算	65,000	87%（88%）	▲9,906	2,200	▲667	▲700	▲771	1,500	▲1,438
アプライアンス（製販連結）	24,100	91%（92%）	▲2,513	710	+25	▲190	▲36	520	▲11

*1 為替・非連結化影響を除く前年比は93%

Panasonic　2020年度 1Q決算概要／業績見通し　15

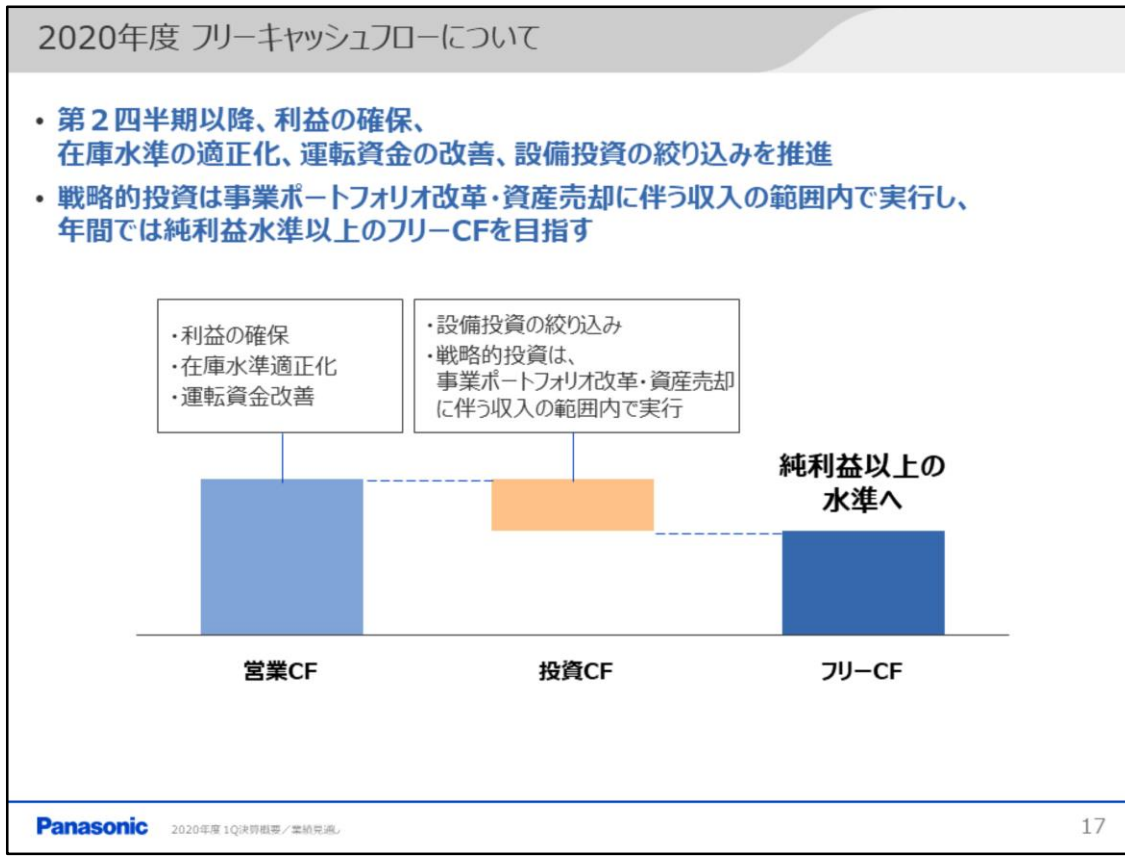
- ここからは、セグメント別の年間見通しです。
  詳細は次のページでご説明いたします。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- こちらは、セグメント別見通しの増減要因です。
- 売上高は、コロナ影響等により全セグメントで減収、
- 調整後営業利益は、
  アプライアンスとインダストリアルソリューションズは増益、
  またオートモーティブは前年並みの見通しですが、
  コネクティッドソリューションズの減益幅が大きく、全体で減益の見通しです。
- アプライアンスは、売上高は減収、
  利益は、空調や白物家電を中心に経営体質強化に取り組み、増益の見通しです。
- ライフソリューションズは、
  一部堅調な事業もありますが、住宅関連事業等の減販影響により、減収減益
- コネクティッドソリューションズは、
  アビオニクスの減販影響が大きく、減収減益、
- オートモーティブは、売上高は減収、
  利益は、車載機器は固定費削減を進めますが減益、
  車載電池は北米工場の生産性向上等により増益となり、全体で前年並みの見通しです。
- インダストリアルソリューションズは、
  売上高は、情報通信インフラ向けの需要は好調ですが、車載向けの減販により減収、
  利益は、半導体の構造改革効果等もあり増益となる見通しです。
- この結果、全社では、
  売上高は、為替や非連結化影響を除く実質ベースで、４，９６３億円の減収、
  調整後営業利益は、６６７億円の減益、
- 営業利益は、前年度一時益の反動もあり、１，４３８億円の減益となる見通しです。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- 次に、2020年度のフリーキャッシュフローについて、ご説明します。
- 第2四半期以降、利益の確保に加えて、
  在庫水準の適正化、設備投資の絞り込み等を推進いたします。
- また、戦略的投資は、
  事業ポートフォリオ改革等に伴う収入の範囲内で実行することで、
  年間では、純利益水準以上のフリーキャッシュフローを目指してまいります。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

事業ポートフォリオ改革の進捗（2019年度以降）

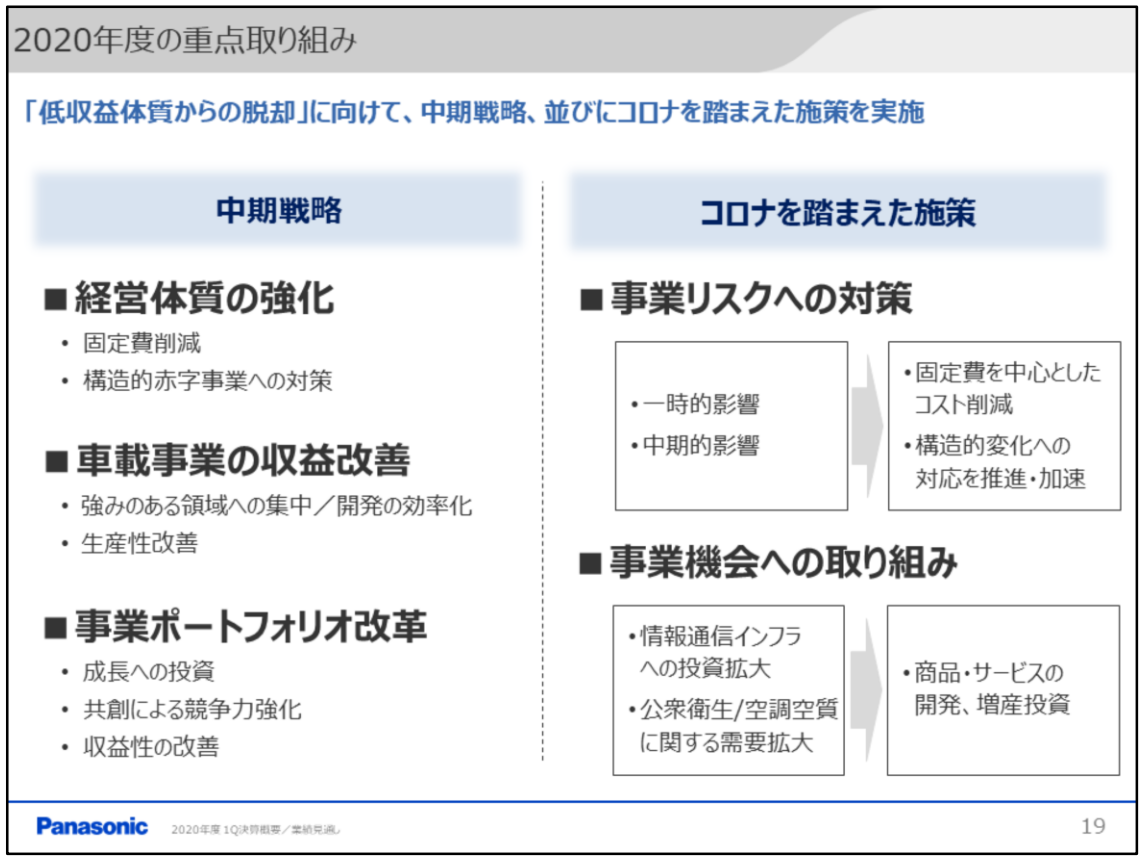
成長に向けた投資	**現場プロセス事業** -サプライチェーン・ソフトウェア大手のBlue Yonder社への戦略的株式投資（20%）を実行(2020/7/20)
共創による競争力強化	**車載用角形電池事業** - トヨタ自動車様との合弁会社 プライム プラネット エナジー&ソリューションズ株式会社を設立(2020/4/1)
	街づくり事業 - トヨタ自動車様との合弁会社 プライム ライフ テクノロジーズ株式会社を設立(2020/1/7) **19年度完了**
	セキュリティシステム事業 -ポラリス・キャピタル・グループ様との戦略的資本提携手続き完了(2019/11) **19年度完了**
収益性の改善	**半導体事業** - 半導体事業の譲渡を発表（2019/11/28） 台湾や中国において、競争法の承認は完了済み。2020年9月完了に向け進捗 ＊ディスクリート半導体事業の一部譲渡を発表(2019/4/23）。2019年11月完了
	液晶パネル事業 - 2021年を目途に、液晶パネルの生産終了を発表（2019/11/21）
	ソーラー事業 - 2019年5月に合意した中国太陽電池メーカーGS-Solar社との協業契約の解消を決定。 新たな協業先との提携も含め様々な手段を検討し、22年度の黒字化を目指す(2020/7/30) - 米・バッファロー工場の生産停止を発表（2020/2/26）。2020年6月末に生産停止し、9月末に撤退予定
	スマートライフネットワーク事業（テレビ事業等） - 構造改革により、21年度の赤字解消を目指す
	ライティング事業 - 欧州照明デバイス事業会社の株式譲渡を発表（2020/2/5）。譲渡完了（2020年2月下旬） **19年度完了**

注:下線箇所は19年度年間決算からの変化点

Panasonic 2020年度 1Q決算概要／業績見通し 18

- 続いて、事業ポートフォリオ改革の進捗について、
  5月に開催した年間決算説明会以降の、主な変化点をご説明します。
- 成長に向けた投資として、
  この7月、現場プロセス事業で、
  サプライチェーン・ソフトウェア大手のBlue Yonder社への
  戦略的投資を実行いたしました。
- また、ソーラー事業については、
  昨年5月に中国のGS－Solar社と協業契約を締結いたしましたが、
  本日、リリースで発表したとおり、その解消を決定いたしました。
- 今後、様々な手段を検討し、早期の黒字化を目指してまいります。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.



- 最後に、2020年度の重点取り組みをまとめております。
- まず、中期戦略として掲げた経営体質強化、
  車載事業の収益改善、事業ポートフォリオ改革を、
  着実に推進してまいります。
- また、コロナについては、
  事業リスクへの対策、事業機会への取り組みを実施してまいります。
- 事業リスクに対しては、その状況に応じ、
  固定費を中心としたコスト削減を進め、
  また、構造的変化への対応を推進してまいります。
- 一方、コロナによる社会変化がもたらす事業機会に対しては、
  商品、サービスの開発や、増産投資を進めてまいります。
- 2020年度は、コロナ影響はありますが、
  「低収益体質からの脱却」に向け、
  このような取り組みを着実に進めてまいります。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

Panasonic

- ご説明は以上となります。
- ご清聴、ありがとうございました。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

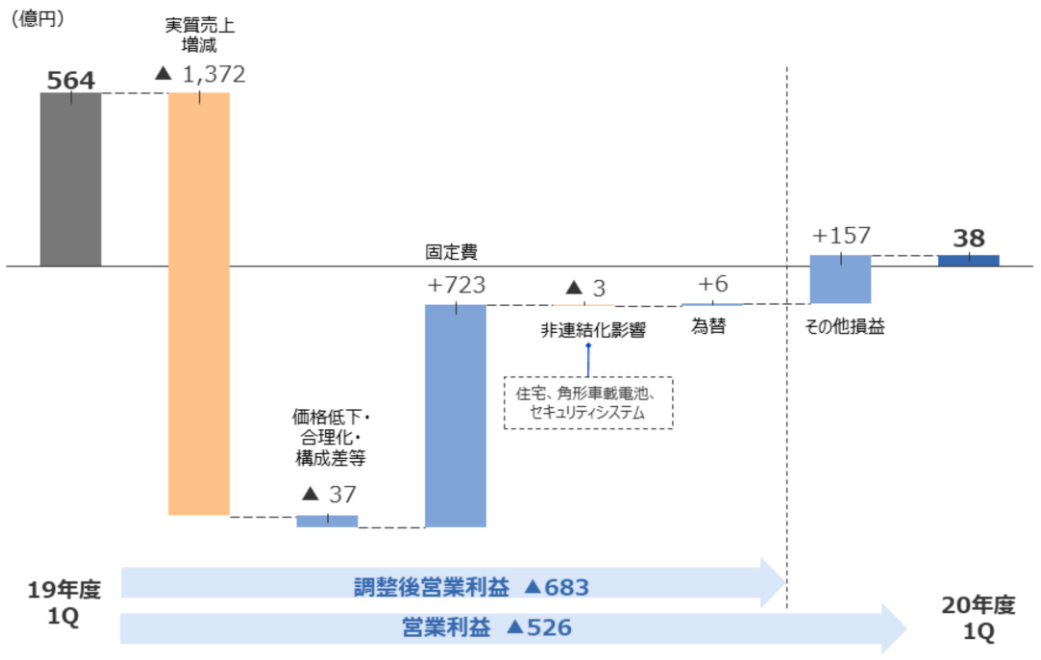
本プレゼンテーションには、パナソニックグループの「将来予想に関する記述」に該当する情報が記載されています。本プレゼンテーションにおける記述のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、かかる将来予想に関する記述に該当します。これら将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報に鑑みてなされたパナソニックグループの仮定および判断に基づくものであり、これには既知または未知のリスクおよび不確実性ならびにその他の要因が内在しており、それらの要因による影響を受けるおそれがあります。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、かかる将来予想に関する記述に明示的または黙示的に示されるパナソニックグループの将来における業績、経営結果、財務内容に関してこれらと大幅に異なる結果をもたらすおそれがあります。パナソニックグループは、本プレゼンテーションの日付後において、将来予想に関する記述を更新して公表する義務を負うものではありません。投資家の皆様におかれましては、金融商品取引法に基づく今後の提出書類およびその他の当社の行う開示をご参照下さい。

なお、上記のリスク、不確実性およびその他の要因の例としては、次のものが挙げられますが、これらに限られるものではありません。かかるリスク、不確実性およびその他の要因は、当社の有価証券報告書等にも記載されていますのでご参照下さい。

・米州、欧州、日本、中国その他のアジア諸国の経済情勢、特に個人消費および企業による設備投資の動向
・多岐にわたる製品・地域市場におけるエレクトロニクス機器および部品に対する産業界や消費者の需要の変動
・新型コロナウイルス感染症拡大が、パナソニックグループの事業活動に悪影響を及ぼす可能性
・ドル、ユーロ、人民元等の対円為替相場の過度な変動により外貨建てで取引される製品・サービスなどのコストおよび価格が影響を受ける可能性
・資金調達環境の変化等により、パナソニックグループの資金調達コストが増加する可能性
・急速な技術革新および変わりやすい消費者嗜好に対応し、新製品を価格・技術競争の激しい市場へ遅滞なくかつ低コストで投入することができない可能性
・他企業との提携または企業買収等で期待どおりの成果を上げられない、または予期しない損失を被る可能性
・パナソニックグループが他企業と提携・協調する事業の動向（BtoB（企業向け）分野における、依存度の高い特定の取引先からの企業努力を上回る価格下落圧力や製品需要の減少等の可能性を含む）
・多岐にわたる製品分野および地域において競争力を維持することができなくなる可能性
・製品やサービスに関する何らかの欠陥・瑕疵等により費用負担が生じる可能性
・第三者の特許その他の知的財産権を使用する上での制約
・諸外国による現在および将来の貿易・通商規制、労働・生産体制への何らかの規制等（直接・間接を問わない）
・法規制に起因した制約・費用・法的責任の発生または法令遵守のための内部統制が不十分である可能性
・パナソニックグループが保有する有価証券およびその他の金融資産の時価や有形固定資産、のれん、繰延税金資産などの非金融資産の評価の変動、その他会計上の方針や規制の変更・強化
・ネットワークを介した不正アクセス等により、パナソニックグループシステムから顧客情報・機密情報が外部流出する、あるいはネットワーク接続製品に脆弱性が発見され、多大な対策費用負担が生じる可能性
・地震等自然災害の発生、感染症の世界的流行、サプライチェーンの寸断、その他パナソニックグループの事業活動に混乱を与える可能性のある要素

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考）2020年度 1Q 営業利益増減（要素別）



Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考）2020年度 1Q 営業利益・当期純利益

（億円）

	20年度 1Q	19年度 1Q	前年差
営業利益	38	564	▲526
営業外損益	▲7	▲2	▲5
税引前利益	31	562	▲531
法人所得税費用	▲100	▲24	▲76
当期純利益	▲69	538	▲607
親会社の所有者に帰属する当期純利益	▲98	498	▲596
非支配持分に帰属する当期純利益	29	40	▲11

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2020年度 1Q セグメント情報

アプライアンス
（製販連結）

概要
（億円）

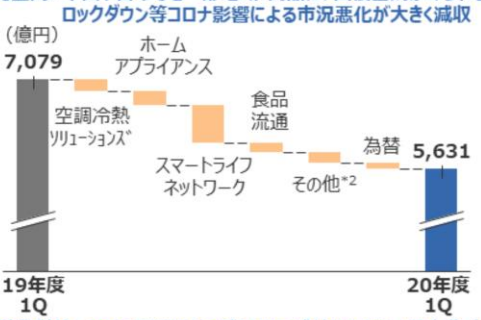
	20年度1Q	前年比/差
売上高	5,631	80% (81%)*1
調整後営業利益 (率)	143 (2.5%)	▲145
その他損益	▲6	▲0
営業利益 (率)	137 (2.4%)	▲145

＊1　為替影響を除く実質ベース

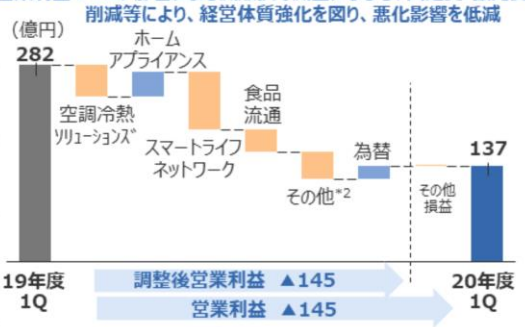
主な増減要因

売上高・調整後営業利益	空調冷熱ソリューションズ	・中国ルームエアコン堅調、日本も5月以降回復基調も、欧州・アジア等のロックダウン影響による市況悪化、マレーシア工場停止の影響もあり、減収減益
	ホームアプライアンス	・中国の美容家電等が堅調も、アジアや中南米の冷蔵庫・洗濯機を中心にコロナ影響を受け、減収 ・減販損はあるも、固定費・拡売費削減等で増益
	スマートライフネットワーク	・欧州を中心にデジカメの市況悪化による販売減や、テレビの工場停止による供給不足等の影響により、減収減益
	食品流通	・日本・北米でコロナ影響を受け、大型店舗向けのショーケースを中心に減収減益
その他損益		–

売上高: 中国や日本など一部地域・商品に、回復基調がみられるもロックダウン等コロナ影響による市況悪化が大きく減収



営業利益：コロナ影響による減販損で減益になるも、固定費・拡売費削減等により、経営体質強化を図り、悪化影響を低減



＊2　冷熱空調デバイス、スマートエネルギーシステム、他カンパニー商材販売、直輸部門、消去等を含む

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2020年度 1Q セグメント情報

ライフソリューションズ

概要

（億円）

	20年度1Q	前年比/差
売上高	3,251	70% (71%)*1
調整後営業利益	73 (2.3%)	▲52
その他損益	▲17	▲19
営業利益	56 (1.7%)	▲71

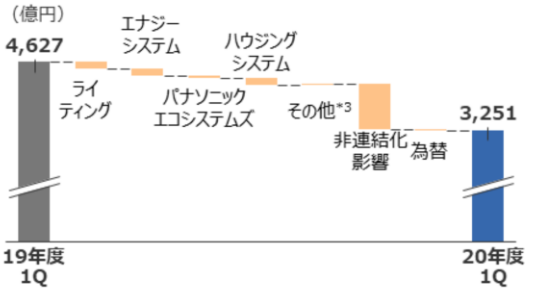
*1 為替影響を除く実質ベース。為替・非連結化影響を除くと前年比は88%

主な増減要因

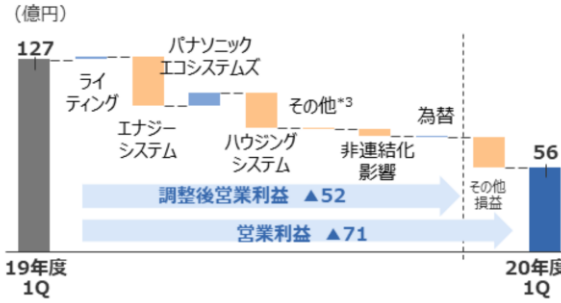
売上高・調整後営業利益	ライティング	• コロナ影響による需要低迷、欧州事業売却の影響により減収も、原価改善・費用削減等により増益
	エナジーシステム	• インド等でのロックダウンによる市況悪化や、工場稼働停止等、コロナ影響による減販により、減収減益
	パナソニックエコシステムズ	• 国内のジアイーノが増販も、アジア・北米でのコロナ影響によるIAQ事業*2の減販により減収 • 減販損を固定費削減等でカバーし増益
	ハウジングシステム	• コロナ影響による市況の悪化や商品供給の遅延等により減収減益
その他損益		• 構造改革費用等

*2 IAQ (Indoor Air Quality)

売上高: パナソニックホームズ等の非連結化影響に加え、コロナ影響による市況悪化等による減販が影響し、減収



営業利益：固定費削減を進めるも、コロナ影響による減販損等で減益



*3 自転車、介護、販売部門、消去等を含む

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2020年度 1Q セグメント情報

コネクティッドソリューションズ

概要

（億円）

	20年度1Q	前年比/差
売上高	1,853	73% (74%)*1
調整後営業利益 (率)	▲166 (▲8.9%)	▲308
その他損益	6	+11
営業利益 (率)	▲160 (▲8.6%)	▲297

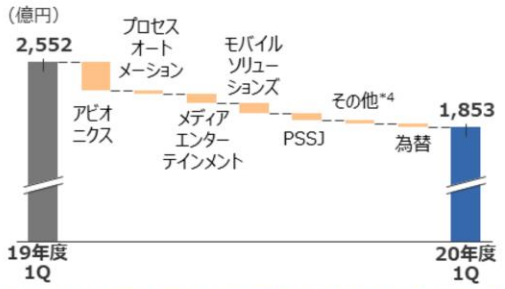
*1 為替影響を除く実質ベース

主な増減要因

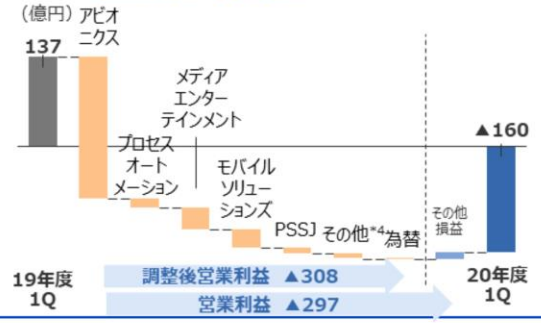
売上高・調整後営業利益	アビオニクス	• 航空機運航の激減による航空会社の投資抑制等に伴い、IFEC*2ハードや、メンテナンス・リペアサービス等の販売減で、減収 • 人件費を中心に徹底的にコスト削減を図るも、減益
	プロセスオートメーション	• 中国におけるサーバー、5G基地局向け実装機が好調も、自動車業界低迷の影響を受け、減収減益
	メディアエンターテインメント	• 世界的なイベント中止の影響を受け、プロジェクター等の販売が減少し、減収減益
	モバイルソリューションズ	• リモートワークによるノートPCの需要はあるも、前年度のWindows7サポート終了特需の反動減や、部品調達難による生産影響もあり、減収減益
	PSSJ*3	• コロナ影響による案件推進活動の遅れや、ノートPCのWindows7サポート終了特需の反動減等が影響し、減収減益
	その他	• セキュリティシステム事業の非連結化等
その他損益		–

*2 IFEC (Inflight entertainment + connectivity)
*3 パナソニック システムソリューションズ ジャパン㈱　　*4 その他事業、消去等

売上高: 航空機運航激減の影響を受けたアビオニクスを中心に、減収。



営業利益：徹底的な固定費削減等を実施するも、コロナ影響による減販損をカバーできず、減益



Panasonic　2020年度 1Q決算概要／業績見通し　26

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2020年度 1Q セグメント情報

オートモーティブ

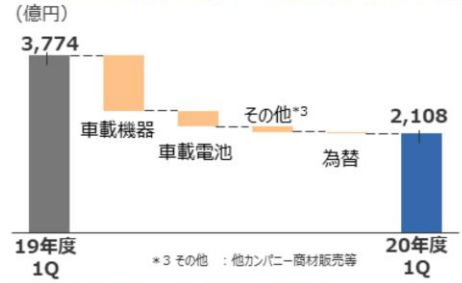
概要

（億円）

	20年度1Q	前年比/差
売上高	2,108	56% (57%)＊1
調整後営業利益 (率)	▲295 (▲14.0%)	▲197
その他損益	200	+202
営業利益 (率)	▲95 (▲4.5%)	+5

＊1 為替影響を除く実質ベース

売上高：コロナ影響により、ほぼ半減。車載機器では、注力領域のIVIへ商品ポートフォリオ入替えが着実に進展

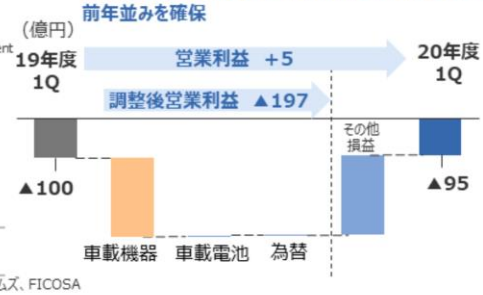


主な増減要因

売上高・調整後営業利益	車載機器	【売上】 ・ コロナ影響により大きく減収。インフォ製品での注力領域であるIVI＊2への商品ポートフォリオ入れ替えは着実に進展 【利益】 ・ 経営体質強化を前倒しで実施し、固定費を大きく削減もコロナ影響による減販損をカバーしきれず
	車載電池	【売上】 ・ コロナ影響により、大きく減収。円筒形北米工場は4月上旬から再稼働し、全ラインの立ち上げが完了 【利益】 ・ 円筒形北米工場での合理化、生産性向上やロス削減等により、コロナ影響を挽回し、前年並みを確保 ・ 円筒形北米工場は、6月度に単月黒字へ回復
その他損益		・ 角形車載電池事業合弁会社の持分法損益、および合弁会社化に係る一連の取引実行による利益等

＊2 IVI: In Vehicle Infotainment

営業利益：車載機器は、固定費を大きく削減も、コロナ影響をカバーできず減益
車載電池は、円筒形北米工場の生産性向上等により、前年並みを確保



注：各開示単位に含まれる事業部 [車載機器] インフォテインメント、HMIシステムズ、車載システムズ、FICOSA
[車載電池] テスラエナジー、角形車載電池事業

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考） 2020年度 1Q セグメント情報

インダストリアルソリューションズ

概要

（億円）

	20年度1Q	前年比/差
売上高	2,886	88% (90%)*1
調整後営業利益 (率)	107 (3.7%)	+39
その他損益	▲15	+1
営業利益 (率)	92 (3.2%)	+40

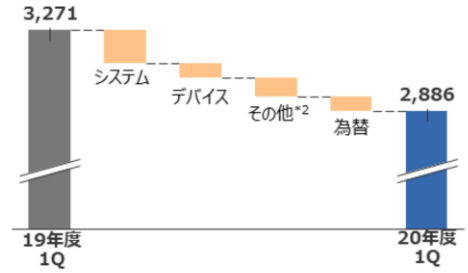
*1 為替影響を除く実質ベース

主な増減要因

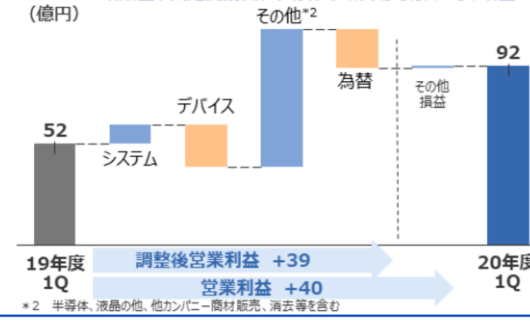
売上高・調整後営業利益	システム	• リレーなど車載向けを中心にコロナ影響を受け、減収も、データセンター向け蓄電システムや産業用モータ等の増販益、固定費削減等で減販損をカバーし、増益
	デバイス	• 情報通信インフラ向けにコンデンサ、基板材料は拡大も、コロナ影響により、車載コイル、センサなど、主に車載向けが低迷し、減収減益
	その他	• 市況低迷により減収も、固定費削減や半導体の契約更改効果等により利益は改善
その他損益		–

注：各開示単位に含まれる事業
［システム］ メカトロニクス、産業デバイス、エナジーソリューション
［デバイス］ デバイスソリューション、エナジーデバイス、電子材料

売上高：情報通信インフラ向けの蓄電システム、コンデンサ、基板材料は拡大も、リレー等の車載向けがコロナ影響を受け、減収



営業利益：コロナ影響による車載向け減販損を、蓄電システム等の増販益や固定費削減、半導体の改善等でカバーし、増益



*2 半導体、液晶の他、他カンパニー間材販売、消去等を含む

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.

（参考）2020年度 サブセグメントの構成

	サブセグメント	主な事業部等
AP	・空調冷熱ソリューションズ	：空調冷熱ソリューションズ事業部
	・ホームアプライアンス	：キッチン空間事業部、ランドリー・クリーナー事業部、 ビューティ・パーソナルケア事業部
	・スマートライフネットワーク	：スマートライフネットワーク事業部
	・食品流通	：コールドチェーン事業部、 Hussmann Corporation
	・その他	：冷熱空調デバイス事業部、スマートエネルギーシステム事業部、他カンパニー商材、直轄・消去含む
LS	・ライティング	：ライティング事業部
	・エナジーシステム	：エナジーシステム事業部
	・パナソニック エコシステムズ	：パナソニック エコシステムズ㈱
	・ハウジングシステム	：ハウジングシステム事業部
	・その他	：自転車、介護、販売部門、消去等含む
CNS	・アビオニクス	:Panasonic Avionics Corporation、アビオニクスビジネスユニット
	・プロセスオートメーション	:プロセスオートメーション事業部
	・メディアエンターテインメント	:メディアエンターテインメント事業部
	・モバイルソリューションズ	:モバイルソリューションズ事業部
	・PSSJ	:パナソニック システムソリューションズ ジャパン㈱
	・その他	:その他事業、消去等含む
AM	・車載機器	：インフォテインメントシステムズ事業部、HMIシステムズ事業部 車載システムズ事業部、 Ficosa International, S.A.
	・車載電池	:テスラエナジー事業部、角形車載電池事業
	・その他	:他カンパニー商材販売等
IS	・システム	：メカトロニクス事業部、産業デバイス事業部、エナジーソリューション事業部
	・デバイス	：デバイスソリューション事業部、エナジーデバイス事業部、電子材料事業部
	・その他	:半導体、液晶の他、他カンパニー商材販売、消去等を含む
その他	・原材料の販売等	
消去・調整	・セグメントに帰属しない収益・費用や、連結会計上の調整及びセグメント間の内部取引消去等	

注：1. 中国・北東アジア社の売上・利益は主にAPセグメントとLSセグメントに、US社の売上・利益は主にAPセグメントとAMセグメントに含まれています。
2. パナソニック ホームズは2020年1月より、オートモーティブエナジーは2020年4月より非連結化。
なお、プライム ライフ テクノロジーズ㈱、プライム プラネット エナジー＆ソリューションズ㈱の持分法による投資損益は、それぞれ「消去・調整」、「AMセグメント」に含む。

Copyright (C) 2020 Panasonic Corporation All Rights Reserved.